# KAHF ニュースレター

〒606-8536　京都市左京区粟田口鳥居町 2-2 京都市国際交流会館 3 階
財団法人　京都国際文化協会内
京都ホストファミリー協会（KAHF）

No. 12
2013 年　3 月発行

**2013 年度　行事予定**

**4 月 21 日(日)**
**・ケーキパーティ**
**（吉田南キャンパス生協2F）**
**5 月**
**・ハイキング(予定)**
**7 月**
**・祇園祭**
**10 月**
**・大原バーベキュー(予定)**
**2014 年**
**1 月 12 日(日)**
**・新春親睦パーティ・バザー**
**（京都市国際交流会館イベントホール）**
**3 月**
**・総会ファッミリーの集い**

KAHF ファミリーの皆様、今年は KAHF が始まってから 30 年目になります。京都にもホストファミリーの会をと、故吉田文武先生を中心に集まった、7 組の先生方ご夫妻やその周りの人々で、1984 年 3 月にこの会は動き出しました。現在ファミリーの数は延べ 440 を超え、お世話をした留学生数は、1720 名近くになりました。振り返りますと、私が幾つもの行事を共にした先生方は、すでに多くが逝かれ、その時々の想い出が懐かしく心に残っています。また各自、背負った母国の文化の違いを、ファミリーに判らせてくれた、当時の留学生たちも、今は 50 歳をとっくに超えました。この 30 年間に KAHF も留学生たちも環境の変化に従って変わって行きました。現在、世界の通信手段が発達し情報化が進み、面接の時、初来日の留学生たちにも、以前の様な緊張感は見られなくなりました。この会が受け入れる留学生の母国は主に東南アジアの国々で、その幾つかの国では、地震や津波など自然災害や、また政変があり、関係する学生の心配をされたファミリーの方々がおありの事と思います。10 年前、マスターの修了直前に母国ミャンマー政府の命令で緊急帰国した女子学生は、「とても、とても残念」と言い残していきました。最近の急な民主化で、彼女の消息が気になっています。

考えてみますと、留学生のお世話をしようというファミリーの気持ちと、日本で学びたいという留学生の気持ちは、そのケースは様々でも、いつも個と個の関係で真っ直ぐに繋がって来たように思います。今留学生のお世話をして下さっている、また、かってして下さったファミリーの皆様方の、お心遣いやご苦労に、心からの敬意と感謝を表したく思います。併せてファミリー数の減少や、高齢化など、幾つかの問題を抱えたこの会が、個の繋がりの輪を広げ、次の人々へと、暖かい思いと共に受け継がれて行く事を切に願っております。

中島伸江

平素、KAHF の活動にご尽力頂き、有難うございます。お陰様で、2012 年度も行事や個々の付き合いを通して、留学生との交流を深めることができました。今年度の活動をまとめたニュースレターを作成しましたので、どうぞお受け取り下さい。なお、ニュースレターはホームページでもご覧いただけます。

KAHF ホームページ URL：http://kahf.web.fc2.com/

## 2012年度会務報告

2012 年度に 20 名の新しい留学生（No.1701～1720）を受け入れて、HF をマッチングしました。詳しくは別紙資料をご覧ください。

2012 年度に新たに 6 名の会員の入会がありました（HF－441～446）。また、13 名の会員が退会をされました。詳しくは別紙資料をご覧ください。これまでの会員としてのご協力に感謝します。

2012 年度の共通行事として、

・総会（ファミリーの集い、2012.3.17）
・ケーキパーティー（2012.4.21、京都大学生協吉田食堂）
・春のハイキング（2012.6.3、サントリー山崎蒸留所見学）
・浴衣着付け教室と祇園祭参観（2012.7.14）
・料理教室（2012.9.1、ウィングス京都）
・秋の交流会・大原バーベキューパーティー(2012.10.14)
・秋のハイキング（2012.11.18、植物園）
・新春親睦パーティー・バザー（2013.1.19、京都市国際交流会館）

を催しました。留学生とファミリー、ファミリー間、留学生間の和気あいあいの交流ができた楽しい行事でした。

日本人学生等を Brother/Sister として希望する留学生にマッチングする新しいプロジェクトを立ち上げることと致しました。これにより、留学生と日本人学生等との同世代間の交流を期待します。現在 B/S 会員を募集中です。改定された HP をご覧ください。HF のご家族等で留学生と同世代の方の参加を期待しています。2012 年度に数件のトライアル・マッチングを致しました。これが新しいホストファミリーの形として今後発展することを期待します。

## 行 事 報 告

**2011 年度 総会（ファミリーの集い）** 2012. 3.17（土）12:00－14:30

平成 23 年度の締めくくりである総会・ファミリーの集いが、川端四条上ル「京料理 井筒」で開かれました。参加者は 32 名でした。昼食の後、H23 年度の会務報告と H24 年度の予定（谷垣代表）および会計の報告があり、その後、西村隆治様による国内・国際経済に関する有益な講演がありました。その後は、ティータイムと懇談で KAHF の運営に関する活発な意見交換が行なわれました。

## 春の行事

**ケーキパーティー**　2012.4.21（土）14:00-16:00

京都大学吉田南キャンパス・生協吉田食堂２F で恒例の春のケーキパーティーを実施しました。このパーティーは新年度に入学してきた新しい留学生に KAHF を知ってもらい、登録してもらう目的で毎年この時期に催しています。参加したファミリーは 59 名で、留学生は 58 名と例年より少なめでしたが、その分、ケーキ、お菓子、飲み物も十分あり、ファミリーと留学生の間の密な交流ができました。その後、くじ引きやミニバザーも催されました。

**春のハイキング** 2012.6.3(日) 11:00-12:00

サントリー山崎蒸溜所の見学ツアーを実施しました。参加者は，ファミリー16 名，留学生 25 名，合計 41 名でした。(京都市国際交流協会登録のホストファミリー：林様ご夫妻と留学生 3 名含む)
なお，所内で説明いただいた宮田康男様は KAHF のメンバーです。材料の仕込み，発酵，蒸溜，熟成工程の見学に続き，ツアーの締めくくりは試飲会場でした。その後，大山崎ふるさとセンターに移動し，各自持参した昼食を食べながら懇談しました。解散後，一部の元気な参加者は天王山登山へ。

## 夏の行事

**浴衣着付け教室**　　2012.7.14（土）15:00-

左京西部いきいき市民活動センター和室(左京区田中玄京町 149) で実施しました。
講師は、ホストファミリーの掛水様、留学生 9 名と日本人 1 名が参加しました。

**祇園祭（宵々々山）参観**　2012.7.14　（土）17:00-

　下京区新町通り仏光寺上ルの船鉾で，恒例の参観を行ないました。
前夜まで大雨が続き，天気が心配されましたが，願いが叶い最後まで雨に降られずにすみました。
今年は参加した留学生が 28 名と例年より少なめでしたが，皆さん浴衣姿が素敵でした。
なお，ファミリーの参加は 7 名でした。暑い中，ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

## 秋の行事

**料理教室**　2012.9.1(土)　13:00-16:30

　ウィングス京都の調理室で、マレーシアのプラミラさんを講師に、マレーシアカレー教室を開催しました。参加者は 19 人、カレーの持ち帰りの袋まで用意していましたが、全く残らず完食でした。
ロティージャラと言う面白い網目状のパン？も作り、簡単そうに見えて結構難しい事も分かりました。

**秋の交流会：大原バーベキューパーティー**　2012.10.14(日) 11:00-15:00

　恒例の秋のＢＢＱパーティーを大原の龍池財団大原郊外学舎で実施しました。秋晴れの下、ファミリーと留学生合わせて８５名の参加があり、盛会でした。今年のメニューは、焼き肉とマレーシア風の野菜カレー。お腹が一杯になった後は、ボール運びゲームに興じて、勝ちチームには沢山の賞品がありました。

**秋のハイキング**　2012. 11. 18（日）11：00-15：00

鴨川沿いから植物園への軽いハイキングを行ないました。留学生の参加３名は少し寂しかったですが、ファミリーは 17 名参加しました。心配した雨も降らずに、寒さも気にならない散策日和の一日になりました。11 時に出町柳三角州に集合し、鴨川沿いに植物園までゆっくり歩き、大芝生で持参した弁当を分け合っての昼食の後、紅葉を愛でながらの散策、後は北門から出てすぐの陶板名画の庭まで足を延ばしました。一部の人は上賀茂神社と社家（西村家）の見学へと足を延ばしました。

## 冬の行事

**新春親睦パーティー・バザー**　2013.1.19(土）14:00-16:00

恒例の新春親睦パーティーが京都市国際交流センターで開催されました。留学生 48 名、ファミリー67 名、他に可愛い子供達、ファミリー希望の見学者など、約 120 名の参加がありました。司会は西村様。谷垣代表が挨拶の後、2012 年度から始める Brother/Sister 制度の説明があり，最初の候補として 3 名の方を紹介。また、弁論大会に原稿を提出してくれた留学生 3 名を紹介して，謝礼をお渡ししました。阪田様の音頭による乾杯の後、会食へ。今年のアトラクションでは、中国と韓国の留学生がプロ級の美しい歌声を聞かせてくれました。その後は子供達期待の、お年玉タイム。お陰様でバザーも成功裏に終了しました。

## 留学生からの寄稿

2012年度のＫＡＨＦ行事の一つとして弁論大会の開催を企画しましたが、発表申し込みの人数が少なく開催に至りませんでした。折角発表を考えて下さった方々にニュースレター紙上で発表するよう依頼したところ3名の方から原稿を提出いただきました。留学生の考えの一端に触れる機会でもありますのでファミリーの皆さまに是非ご一読いただければ幸いです。なお掲載は原稿到着順としました。

弁論大会実行委員会

### なるほど

Temtrirath Kanate（タイ）
京都大学大学院農学研究科　在日期間　6年

私の国、タイでは私と同世代の人達は小さい頃、アニメから生活用品・電化製品・車までありとあらゆる日本製品に馴染み、憧れるような環境に居ました。日本に留学するようになって、日本で私は「なぜ日本に留学することにしたの？」とこのような質問をよく受けました。ここにいる留学生の皆様はどうでしょうか。これは私に対する日本人の関心かどうかはともかく、私自身は特に困りました。留学しようという気持ちはあったが、ここにいる意義がはっきりと分かりませんでした。しかししばらく日本に住んでいると、多くの人と会って、私の考え方を転換するようなものと出会いました。

私は日本に来て一年半の日本語研修を終え後、日本人の心の故郷である京都での勉学を決心しました。ここで私は多くの人々と話し合う機会があって、その中で気付いたのは日本の戦後、人々が平和を求め、色々なことを起こしたことです。食物を通したり、武道を通したりして、自然との調和をとって世界平和への道を目指しながら、自国の個性・特徴を強調し世の中に広めて、活躍した方がたくさんおられたと知りました。その中で21世紀の日本代表的な武道である合気道を創始した植芝翁がそのお一人です。

私自身は元々武道に興味を持ち、そのため大学のサークルで合気道を始めました。ある日、メンバーがだれも来ない中、私は先生と二人きりで稽古をしました。一時間ほどの稽古が終わり、へとへとに疲れきった私は正座の姿勢で、先生に向かって幾つかの話を聞いたり聞かれたりしました。話が楽しく進み、気がつかない内に日が暮れて夜遅くなってしまいました。そろそろ帰る時間だと思い、なんとか奥義を教えてもらえるかもしれないと考え、勇気を出して、先生に質問しました。「先生、一日も早く合気道を上達したいですが、なかなかうまくできなくて困っています。どうしたらいいでしょうか？」。先生は優しい顔で「君、基本に戻って基本のことを一生懸命稽古しなさい」とこれだけの言葉をくださいました。その晩、私は理解できないままで、部屋に帰りました。そのことを思い返してよくよく考えてみました。私は合気道のみならず、日常生活においてもあまりうまく運びません。今の仕事、今の人間関係、今の自分に満足できないことが胸一杯です。ところが、先生のお言葉「基本に戻りなさい」がヒントになって、あることが心にひらめきました。

他人の言葉や考えに学ぼうと、私達は外ばかり向いたりして目を内側に向けることが滅多にありません。外に向かって求める心というのはなかなか止めることができないものだと気付きました。事実、我々は他人の考えばかりなぞって、目の前や足下をちゃんと見ないで遠くばかり探しまわって物事の本質を見失ってしまいます。私はまず本来の自分を見つめて、自分に大切なもの・志向するもののような根本的なことをしっかりつかまなければならないと思いました。また留学もそうです。留学を通して、相手の国の文化や言葉などを経験したい、海外の生活で広い視野と複眼的な価値観を持って物を見ることを

可能にしたいなどのような目的は皆さん思っていませんか。実際、国際交流の場においてお国自慢をよくします。しかし自分の「ルーツ」・自分の基本である母国の文化と習慣を知らない限り、お互いに友好関係を深め、世界平和にはつなげていけないのだと私は思っています。私達は一先ず自分の根源、自分が生まれ育った土地社会の結びつき、要はふるさと愛を持たなければならないのではないでしょうか。幸いなことに日本への留学のお陰で、私はそのことを自覚することができました。これからグローバル社会に活躍する国際人の皆さんはときどき自分の礎に戻り、顧みてはいかがでしょうか。

## 日本社会の人間関係：「外」と「内」　――　日本に居る五年間の実感

朱　明文（中国）

京都大学大学院　人間・環境学研究科　在日期間５年１カ月

今年はすでに私が日本に来て五年目になった。この五年間に勉強、バイトや旅行などいろいろ体験した。日本人のどこが私に一番印象を残したかと聞かれると、やはり、一番感じたのは日本人に特殊な「内」と「外」の観念が発達していることだろう。具体的と言えば日本人は「内」の者には親しみ、「外」の者に隔てる感じがある。

まず最初は、「外」の者に隔てるということを議論しよう。「外」の者は自分に対して初対面の人あるいは詳しくない人のことである。隔てるというのはいろんな表現があるが、私がよく感じたのは日本人が「外」の者にすごく親切な振りをしていたが、実際の心の中に全然そのように思っていないこと。例えば、一人の新人さんがとあるグループに入ったばかりの頃に、たぶんグループの先輩が“無理”にしても優しく話してあげるのだろう。このように親しい理由がまだないのに親しい振る舞いをする行動は私からみるとわざわざ距離を置くよう感じがある。心の中の原因を深く探ると、たぶん、自分がまだあの人を受けていないが、せめて表のよい雰囲気を保とうという考えであろう。

逆に同僚や上司に難しい問題を聞かれたり、厳しく仕事を要求されたりすると、これは本当に日本人に受けられている証だと思う。なぜかというと、一人に厳しく要求すること自体はこの人に何かを求めることを意味している。信頼できる「内」の人であるこそ、この信頼を託すことができる。「外」の人との付き合い時はそれと違い、できるだけ喧嘩しないで仲良くするというのが基本の目的なので、自然に優しく話す方針は優先に取られているのだろう。

こういう現象を理解するのはもちろん重要だが、如何に自分のために生かすのはもっと重要だと思う。如何に生かすかというと、簡単な例を挙げると、この標準を利用して自分が本当に日本人のみんなに受けられているかどうかを検証できる。もし、自分の先生や上司が自分に対してすごく厳しいかなぁという感じがあったら、おめでとうございます。あなたは先生や上司にすでに「内」の人として受けられていると考えてよい。厳しさは愛の鞭とも言える。もちろん、愛が溢れると傷がつかれるかもしれないので、耐えられない時にその先生や上司によく話し合い相談すると、問題が必ず解決するだろう。なぜかというと自分に重要な「内」の人に死ぬほど追い詰めるわけがないからだ。

逆に毎日ひまひまで何もしなくても言われたりはしないなら、これは明らかに嫌われている証と思う。この時はもっと力を入れて頑張ってもらって、もう一度信頼を取り戻さないと、すぐにアウトしてもおかしくないと思う。

これは自分が日本にいる五年間の経験の僅かの一つだが、みんなにお役立てればうれしいと思う。

## 世界を知るため、私はここにいる

朱　震（中国）
京都大学　経済学研究科　在日期間　2年1カ月

私は、「この世界をもっと知りたい」という夢を胸に、日本に留学しに来ました。
この留学生活を有意義に送るように、日本に来る前に、私は二つの目標を設定し、やり遂げることを心に決めました。

一つの目標は、「勉強は自分の趣味のためだけにする」ことです。
留学の目的は世界を知ることですので、そのメインとなる「勉強」に力を入れる以外、「何を勉強する」ことは当然なことです。卒業後はもちろん社会に入ることになると言っても、良い仕事を見つけることだけを勉強の目的にすると、もったいないような気がしました。そのため、私は常に「自分が勉強したい」を第一の選択基準としてきました。専攻の選択は学部と同じの情報学より、興味を持つ経営学にしました。また、その経営学をより詳しく学ぶように、一年をかけて学部の授業に参加して、さらに別の大学院の授業やワークショップにも積極的に参加しています。
このような学生生活を送っているうちに、私は今まで以上に勉強の醍醐味を感じることができました。残りの一年も、この目標に向かって、さらに頑張っていきます。

もう一つの目標は、「少なくとも生活費を自分で稼ぐ」ことです。
大学時代に、学費と生活費の全部を自分で稼いだ友達がいました。あの時、彼の深い考えと責任感のある立ち居振る舞いが非常に印象深かったです。家に負担をかけたくない思いがあって、そして日本でアルバイトをするのが普通だということを知った上で、私は彼のように、この留学生活で、少なくとも生活費を自分で負担するように、勉強と生活を両立させてみると決意しました。

幸いなことは、日本に来てから二ヵ月にすぐアルバイトを見つかりました。それからの一年間、私は入学試験の準備と興味のある科目の勉強、そしてアルバイトの三つのことに全力を注いでいました。結果として、私は試験合格、学部授業の参加、そして生活費の自己負担の三つのことを達成しました。さらに、その翌年の入学前に、私の努力と心意気が評価されて奨学金をもらいまた。そこでやっと、学費まで自分で負担する完全自立を達成できました。

この二年間を振り返りますと、楽しい時もあって辛い時もありました。必死に頑張って、やっと目標を達成した瞬間、私は自分の理想に一歩近づけた喜びを味わうことができました。もし、留学するかどうかを迷っていたあの頃の私に一言を言えるとしましたら、私は「自分を貫きなさい」を言いたいです。一歩前に進んだら、きっとその手で自分の夢を掴むことができるだろう。
これまでも、そして、これからも。

編集後記

・皆様のご協力で，今年度もニュースレターを発行することが出来ました。寄稿いただいた方々，資料提供いただいた方々に，この場を借りて御礼申し上げます。（T.F）